Kawabata Ryushi Plus One | Collaboration with the Takahashi Ryutaro Collection: | Kondo Aki "I, and myself,"

大田区立龍子記念館
Ryushi Memorial Museum



高橋龍太郎コレクション連携企画 川端龍子
Plus One 近藤亜樹

I, and myself,

吾は、わたしは、



2026年11月21日[土] - 2027年1月24日[日] | 大田区立龍子記念館

November 21, 2026 – January 24, 2027 | Ryushi Memorial Museum

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）
休館：月曜日（11月23日[月・祝]、1月11日[月・祝]は開館し、その翌日に休館）年末年始（12月28日～1月4日）
入館料：一般1,000円、小中学生100円 ※65歳以上、未就学児及び障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料
主催：公益財団法人大田区文化振興協会
協力：高橋龍太郎コレクション、医療法人社団こころの会、NANZUKA
大田区立龍子記念館 〒143-0024 東京都大田区中央4-2-1 | ハローダイヤル　050-5541-8600

えがく かなでる ひびく
公益財団法人 大田区文化振興協会

日本屈指のアートコレクターとして知られる精神科医・高橋龍太郎氏のコレクションとの連携で、高橋氏が注目する現代アーティストの作品を日本画家・川端龍子（かわばたりゅうし、1885-1966）の作品とともに展示するシリーズ企画展「川端龍子プラスワン」。本展の後期は2011年にデビューし躍動感あふれる筆づかいと力強い色彩の絵画で注目を集める現代アーティスト・近藤亜樹が出品します。

本展においては、近藤亜樹は新作として「自由になる虎の絵で、龍子であり、私でもあり、だれの心にも住む虎の絵」と語る《フライングタイガー》や《葡萄泥棒》（いずれも2026年、作家蔵）を出品するほか、高橋龍太郎コレクションからは、故郷・札幌で制作した《ふるさと》（2020年）や幅7.8メートルの大作《ウータン山》（2010年）等を展示します。さらに、人物や動物の様々な顔が表された近藤のドローイング作品が多数並びます。一方、川端龍子の作品は、太平洋戦争末期の破局的な状況への怒りを赤富士に表した《怒る富士》（1944年）や終戦直後の荒廃した国土を弱り切った龍に見立てた《臥龍》（1945年）、そして、温泉好きだった龍子が戦後復興期に理想の桃源郷をコミカルに描いた《翡翠（かわせみ）》（1951年）等を展示します。川端龍子の「吾（われ）」と近藤亜樹の「わたし」が時代を超えて向き合った時、生み出される作品同士の対話は、龍子記念館に新たな彩りを加えます。作品と対峙するうちに、その問いは鑑賞者自身の「わたし」へと重なり、広がっていくでしょう。龍子記念館という独特な空間に近藤がどのように対峙するのか、その試みも本展の見どころです。

また、記念館の向かいに保存されている旧川端龍子邸のアトリエ（1938年築・登録有形文化財）においては、近藤がダンボールで制作した立体作品を展示し、かつて龍子が制作に明け暮れた場所に残る息づかいや余韻を静かに浮かび上がらせます。


1


2


3

川端龍子 Kawabata Ryushi

1. 臥龍, 1945
2. 怒る富士, 1944
3. 酒房キウリ, 1956

大田区立龍子記念館蔵 Ryushi Memorial Museum

高橋龍太郎コレクション連携企画 **川端龍子**
Plus One **近藤亜樹**

吾は、わたしは、

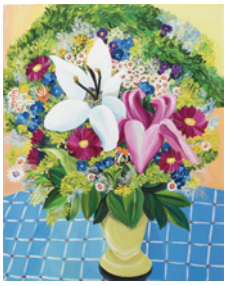
彼は日常で何をみて、何を感じて過ごしていただろう。
私は日常で何をみて、何を感じて過ごしているだろう。
同じ画家だけど、私は彼ではない。彼も私ではない。
真っ白な世界に自分が一本線を引いて、気持ちよく色を広げたら、
今日も1枚の絵ができた。
自分の内側に潜ったはずが、一周回って世界と繋がるから絵は面白い。
ある日、私は絵の中で彼と出会った。
「吾（われ）は、わたしは、」
生まれ落ちたこの世界で何を見つけて残しただろう。

（近藤亜樹）


4


5


6


7



8

近藤亜樹 Kondo Aki

4. 葡萄泥棒, 2026

作家蔵 Collection of artist

5. 母と子, 2017
6. 恋はキャンディ, 2015
7. やさしさに包まれて, 2020

高橋龍太郎コレクション
Takahashi Ryutaro Collection

8. 近藤亜樹像, 2026

作家蔵 Collection of artist
©Aki Kondo

関連イベント

高橋龍太郎×近藤亜樹トークイベント
2027年1月10日（日）18:00〜19:00　会場：展示室内
現代アートコレクターの高橋龍太郎氏と出品作家の近藤亜樹が本展について語り合います。

アトリエ内見学
会期中の金、土、日、祝日の11:30〜11:50、14:30〜14:50
龍子のアトリエに入って、室内の近藤亜樹の作品を鑑賞いただけます。（インターネットによる事前予約制・各回先着15名）

学芸員によるギャラリートーク
11月29日（日）、12月20日（日）、2027年1月17日（日）
各日13:00〜（40分程度）　会場：展示室内

龍子公園のご案内
隣接する龍子公園では、龍子設計のアトリエと旧宅をご覧いただけます。
開館日の1日3回　10:00、11:00、14:00から開門しご案内します。（30分程度）

お問い合せ
大田区立龍子記念館 | 〒143-0024　東京都大田区中央4-2-1
ハローダイヤル:050-5541-8600　記念館直通:03-3772-0680
https://www.ota-bunka.or.jp/facilities/ryushi/

Opening Hours : 9:00-16:30 (entrance closes at 16:00)
Admission : Adults:1000yen, Minors:100yen
Children under 6 and seniors over 65 are free
Closing Days : Mondays (When a national holiday falls a Monday, the Museum will be open and close on the following day)

当館へのアクセス
●ＪＲ京浜東北線 大森駅西口から東急バス4番
「荏原町駅入口」行乗車「臼田坂下」下車、徒歩2分
●都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から
馬込桜並木通り（桜のプロムナード）に沿って徒歩15分

